

## Let's CONDOMing!

「教材パッケージ(複合教材)」の意義と  
基本的考え方

新潟県立看護大学 徐 淑子

## 教材パッケージ(複合教材)

視聴覚教材  
シナリオ・ブック  
ワーク・ブック  
副読本  
ゲーム集

視聴覚教材

### Let's CONDOMing の特色①

#### 群像ドラマ仕立ての教材

##### ●ピア・モデルによるドラマ

どこにでもいるような若者たちが主人公。  
視聴者は登場人物や、ドラマのできごとを  
身近に感じることができる。視聴者は、

- ・メッセージに納得できる
- ・ロール・モデルを見出すことができる

視聴覚教材

### Let's CONDOMing の特色②

#### 群像ドラマ仕立ての教材

##### ●モデル学習の効果

ドラマでおこるできごとや会話のなかから  
性の健康やコンドーム使用について

- ・どのように他者と話したらよいか
- ・どのように行動したらよいか
- ・なにが大切か

見て、学ぶことができる

視聴覚教材

### Let's CONDOMing の特色③

#### 群像ドラマ仕立ての教材

- 大人が出てこない
- データや科学的事実の提示による言語的  
説得はない
- 知識ではなく、行動や価値の学習を行う

教材パッケージ(複合教材)

### であることのメリット ①

- 映像教材⇒「みる」活動
- その他の教材(ワーク集、ゲーム集、シナ  
リオブック・副読本にもとづく指導者の講話)  
⇒「きく」「はなす」「かく」「かんがえる」  
「からだをうごかす」  
複数の学習チャネルの活用が可能

教材パッケージ(複合教材)  
であることのメリット ②

1

見て学び(ビデオでモデル学習)  
ワークで考えを整理

2

見て学び(ビデオでモデル学習)  
ミニレクチュア(講話)で知識補充!

教材パッケージ(複合教材)  
であることのメリット ③

3

見て学び(ビデオでモデル学習)  
ワークで練習(スキル学習)!

4

見て学び(ビデオでモデル学習)  
ワーク・ゲームで体感!

Let's CONDOMing!

- 教育内容にバラエティが出る
- 教育目的・対象に合わせ、  
内容が選べる
- 指導者の創意工夫を  
取り入れやすい

Let's CONDOMing!

「書いてみよう」  
～シナリオ書き換えとロールプレイに  
よるワーク

新潟県立看護大学 徐 淑子

はじめに

- ロールプレイの意義  
じっさいに声に出し、動いてみるのが重要  
湧き上がってくる感情に注目する
- 映像教材の位置づけ  
ロールモデルを提供するものであるが、  
「絶対的なお手本」というわけではない。

「書いてみよう」～ワークの流れ

- ① 映像視聴
- ② 場面で起こっていることの確認
- ③ 映像モデルのよい点・改善できそ  
うな点を検討
- ④ シナリオ書き換えワークの内容確認
- ⑤ グループに分かれ、役割分担・作業
- ⑥ シナリオを発表(上演)・ふりかえり

## この場面でなにが起こっているか

### 場面4

「ケンカの原因はセيفァー・セックス」

舞は、佳紀が「一回だけならいいだろう」と言ったことをきっかけに、その後もズルズルとコンドームを使用しないセックスを繰り返してしまったことを後悔しているようです。舞にしてみれば、最初の1回だけは納得した上でのことだったようですが、その後のことは不本意だったようです。でも、佳紀にしてみれば、ずっと舞も同意してのことだったと思っているようです。二人の間には明らかな意見の相違がみられます。舞は「2週間も生理がこない(妊娠しているかもしれない)」と、わざと佳紀にショックを与えるような言い方をし、これまで伝えられなかった気持ちを口にします。しかし、相変わらずコンドーム使用についても、舞の思いについても、あまり深刻に捉える様子のない佳紀の言動に、舞は許せないものを感じます。

## グループでの話し合い

映像モデルのふるまいで、  
よいと思った点を  
思いつくかぎり、挙げる

## グループでの話し合い

映像モデルのふるまいで、  
改善できそうな点を  
思いつくかぎり、挙げる

## ブレイン・ストーミング

- いくつかのグループに分かれる
- 各グループで一人の筆記係を決める
- 与えられたテーマに基づいて、各グループごとにアイデアを出し合う
- 筆記係はすべてのアイデアを記録する
- グループ間でアイデアの数を競い合う

## ブレイン・ストーミングのルール

何でも受け入れる  
(他者のアイデアを批判しない)  
判断を停止すること  
(良し悪しの裁定を下さない)  
自由奔放  
質より量

## シナリオ書き換えの課題

場面4「ケンカの原因はセيفァー・セックス」

- 舞  
じぶんのきもち・要望を佳紀に伝えます  
佳紀が好きだというきもちは変わりません
- 佳紀  
舞にぶつけられた思いにたいするじぶんの正直な  
きもちを、舞に伝え返します  
舞が好きだというきもちは変わりません

## シナリオ書き換えの課題

### 場面4「ケンカの原因はセイファー・セックス」

歩いている舞と佳紀。舞、立ち止まって。  
 舞 アタシ、帰るわ。  
 佳紀 何だよ、今会ったばっかじゃん。  
 舞 じゃあね。  
 舞、歩き出す。佳紀、引き留めて。  
 佳紀 オイ、明日休みだろ？

この続きを自由に創作してください。  
 結末をどうするかもあなたにおまかせします。  
 声の調子や、立ち居ふるまいにも工夫をこらしてみてください。

## できあがったシナリオを上演する

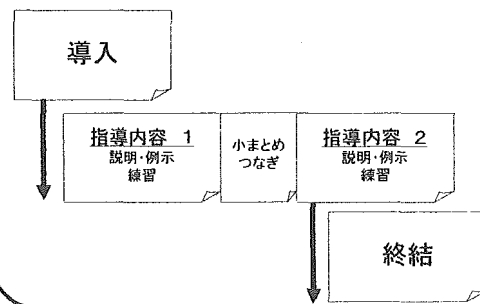
- 上演
- ふりかえり
  - ・どこを工夫したか
  - ・やってみて、どのように感じたか
  - ・じぶんが登場人物と同じような立場に立ったときに、この練習は役に立ちそうか

## Let's CONDOMing!

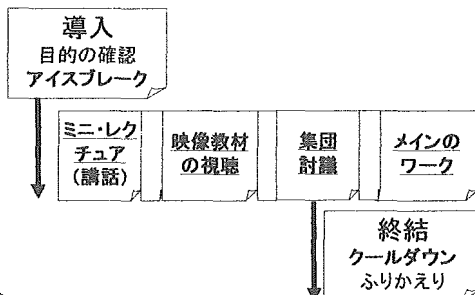
### ワークを用いた動きのある授業

新潟県立看護大学 徐 淑子

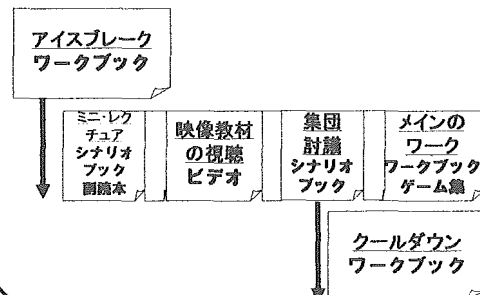
## ひとつの授業の構成



## ワークをとりいれ、授業に動きを出す



## 教材パッケージとの対応



## カフェテリア方式

映像教材およびシナリオ・ブックに収録されている課題

- 映像教材の場面課題
- 映像教材にもとづく集団討議課題
- 若者が直面しやすい問題状況のリスト

↓↓↓↓↓  
教育目的にあわせて選択

ワークブックに収録されているワークのジャンル

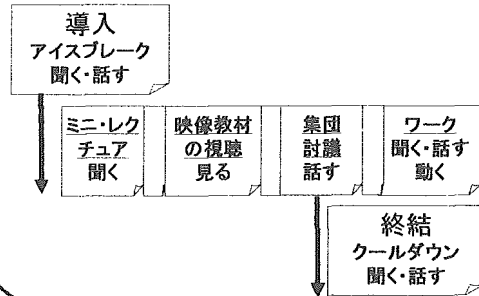
- アイスブレイクと自己紹介
- ボディワーク
- 自分を知るためのワーク
- 考えを整理するためのワーク
- 行動を起こす準備のためのワーク
- ロールプレイと練習

## ワークブックの索引

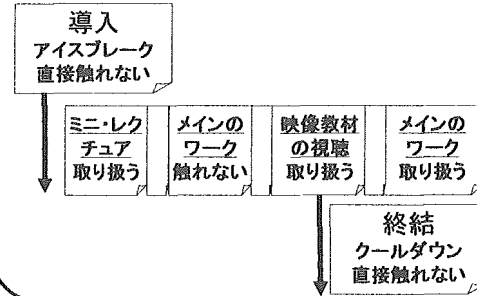
- ワークのジャンル
- ワークの目的
- ワークの実施形態(集団、ペア、個人等)
- 主な活動(「話す」「書く」「動く」)
- 性について直接とりあつかうか
- おおよその所要時間

これらを一覧表にまとめ、授業設計の便宜を図る

## 授業構成の例 活動



## 授業構成の例 性についてとりあげる



## 指導計画の例 50分プラン

		時間	構成	活動
1	あいさつと導入	5	導入	きく
2	Let's Condoming!の視聴	20	メイン	みる
3	視聴者の感想発表	5		はなす
4	ミニ・レクチュア	15	メイン	きく
5	全体の振り返り	5	終結	はなす・きく

ミニ・レクチュアになにを取り上げるかは、指導者の裁量

## 指導計画の例 90分プラン

		時間	構成	活動
1	あいさつと導入	5	導入	きく
2	ミニ・レクチュア	20	メイン1	きく
3	Let's Condoming!の視聴	20	メイン2	みる
4	グループワーク	20	メイン3	はなす・書く・うごく
5	発表とまとめ	15		はなす
6	クールダウン	5	終結	はなす・きく
7	全体の振り返り	5		はなす・きく

ワークでなにを取り上げるかは、指導者の裁量

## カフェテリア方式のメリットとデメリット

### メリット

- 時間の節約になる
- 取り組みを開始しやすい・とつきやすい
- 他者に説明しやすい
- じぶんの考えを整理しやすい

### デメリット

- だれがやっても同じになりそう。オリジナリティがない
- グループワークを経験していない人にとっては、むずかしいのでは

## まとめ

- カフェテリア方式はあくまでもひとつの提案
- ワークを指導者のやりやすいように変えていくことにより、オリジナリティを出すことができる
- 映像教材が提示する課題やワークの内容の中には、性についてかなり踏み込んだものもあれば、そうでないものもある。どれを選ぶか、どこまで取り扱うかは、指導者にまかされている

## グループワーク・ ファシリテーションの工夫

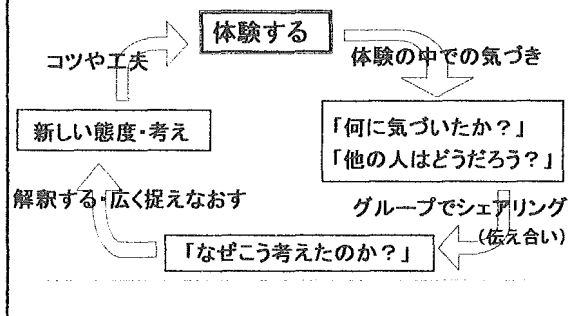
大阪教育大学  
野坂祐子

### 1. グループワークって、どんなこと？

- 知識を講師から「教えてもらう」のではなく  
体験を通じて「自分で主体的に学んでいく」
- グループの参加者から、「いろいろな見方」や  
「さまざまな考え」があることに気づく
- 「正解」はない。「気づく」過程が大切
- “今ここで” 起きている体験そのものが素材

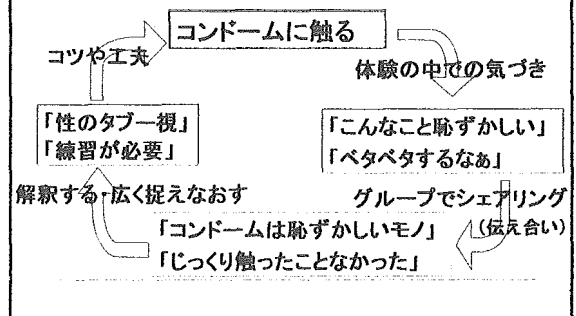
### 2-1. グループワークでの学びの過程

～話す・聴く・動く～



### 2-2. グループワークでの学びの過程 (2)

～ひとつの事例から～



### 2-3. グループワークでの学びの過程 (3)

～各段階での留意点～

- ① 体験 ⇒ 気づきを促す
  - ・どのような体験でもよい (抵抗感も重要な感覚)
  - ・気づいたことを励ます (どんなコメントも有用)
- ② 気づき ⇒ 他者との共有(シェアリング)
  - ・グラドルールの徹底 (ファシリテーターの役割)
  - ・「共有しづらい」ということも重要な体験

### 2-4. グループワークでの学びの過程 (4)

～各段階での留意点 (コツき)～

- ③ 共有 ⇒ 解釈・広く捉えなおす
  - ・個人の感覚や体験を、「どのような背景によるのか」という視点で捉えなおす。
  - ・キーワード: 「健康」や「ジェンダー」(性に関する価値観)
- ④ 解釈 ⇒ コツや工夫
  - ・大きな視点から、再び自分自身の課題を探す
  - ・より具体的に、より現実的な課題設定にする。

### 3. グランドルールで、安全な場づくり

お互いに安心して、グループワークに参加するための基本ルール

1. 守秘義務を守る
2. 積極的に参加する
3. お互いのペースや「打ち解け方」を尊重する
4. 自分の個人的な経験から、話せることを話す

Next ⇒

### グランドルール (続き)

5. 一人ずつ話す
6. 批判的にならない、決めつけない
7. 参加者は多様な価値観や問題を持っている
8. 言葉による暴力禁止
9. 限られた時間
10. マナーを守る

### 4. ワーク実施の際のポイント

1. ワークの目的を明確にする
  - あまり欲張らず、学習目的や学習内容をしぼる。
  - 対象者の年齢や状況、ワークの環境を考慮する。
2. ワークの準備を十分ににする
  - 「完璧な」計画ではなく、「柔軟な」計画をたてる。
  - あらかじめ作成したボードやカードなどの活用。
3. 学習者のニーズを把握する
  - 対象者の「動機」や「期待」、「困難性」を確認 (例: 導入ワーク)
4. 「安全な」場づくり
  - グランドルールの説明 & アサーティブなファシリテーション
  - 逸脱者への対応 (→ 個別対応につなげる など)

Next ⇒

### ポイント (続き)

5. 参加者の動機を高める
  - 具体的な事例や、身近な問題をとりあげる。
6. よく聞こえるように話す
  - 「はっきり、ゆっくり、全員に」説明することを意識する。
  - 対象者に意見を求めた際は、その発言を繰り返す。
7. 学習者中心、学習者尊重の姿勢
  - 発言者がどんなふうと考えて、何を伝えたいのかをよく聴く。
  - 発言者、参加者を励ます。
8. ファシリテーター同士のふりかえり
  - ワークで起きていたこと、ファシリテーターの動きをふりかえる。
  - ファシリテーター自身が、「安心して」ワークに参加できているか。



索引 A 活動方法・目的

ワークのなまえ	ワークのジャンル	参加者のレベルに合います	体験のワークアップに合います	メインのワークに合います	最終のワークアップに合います
動物自己紹介	ワークのジャンル	●			
からだほぐし		●			●
代返ゲーム		●			
つみき自己紹介		●			
名刺交換	アイスブレイク ウォームアップ	●			
仮想商店街		●			
健康しりとり		●			●
今の気分は何色？		●			●
プレゼントのお礼		●			
じゃんけんバンク		●			
コンドームバレーボール		●		●	
なんちゃって手話		●		●	
からだで字を書こう		●		●	
手をたたこう		●		●	
ブライントウオーク		●		●	
○×クイズ (大人数)		●		●	
デートではこれが一番大事！				●	●
感染者の手記を読む				●	●
「気持ちいい」いろいろ				●	●
健康を守るために みなが行っていること				●	●
どうしてコンドームが 使えないのだろう				●	●
HIVについてわたしと 社会ができること				●	●
○×クイズ (小・中人数)				●	●
どうして話せないのだろう				●	●
ストレスと「性の健康」				●	●
○さんがコンドームを 買えない理由				●	●
こんなときどうしよう				●	●
大切に対実行する自信				●	●
男女スイッチ！				●	●
シナリオを朗読する				●	●
シナリオを書いてみる				●	●
シナリオを演じてみる				●	●

目次

ワークのなまえ	ワークのジャンル	ワークの目的	ページ
動物自己紹介	ワークのジャンル		…1
からだほぐし		自己理解・他者理解、コミュニケーション	…1
代返ゲーム		からだのリラクゼーション	…2
つみき自己紹介		対人交流の拡大	…3
名刺交換		参加者同士の名前を覚える	…4
仮想商店街		お互いに挨拶する	…5
アイスブレイク ウォームアップ		コミュニケーションを図る	…6
健康しりとり		ことばを使ったコミュニケーションの準備を行う	…7
今の気分は何色？		自分の気分につく	…8
プレゼントのお礼		ものごとの肯定的な側面を表現することばを引き出す	…9
じゃんけんバンク		グループでまだ話したことのない人と話す	…10
コンドームバレーボール		明るい楽しい雰囲気の中で、性の知識を目標とする	…11
なんちゃって手話		コミュニケーションの非言語的側面(ボディランゲージ、表情等)を促す	…12
からだで字を書こう		からだをほぐし、気分転換をおこなう	…13
手をたたこう		ざわついた会場を静かにし、ファシリテーターに注目を集める	…14
ブライントウオーク		無防備な状況、他者に依存するほかにない状況を体験する	…15
○×クイズ (大人数)		ゲームを通じて、正しい性の知識を修得	…16
デートではこれが一番大事！		自分ももっている価値観と他者がもっている価値観の違いを知る	…17
感染者の手記を読む		感染者の手記を読んで、内面におき起こる感情を表出する	…18
「気持ちいい」いろいろ		セックスの多様性に気づくこと	…19
健康を守るために みなが行っていること		性の健康を守るための行動のさまざまなかたちに気づく	…20
どうしてコンドームが 使えないのだろう		コンドーム使用ができない理由について「男らしさ・女らしさ」という観点から考える	…22
HIVについてわたしと 社会ができること		HIVについてできることを、個人と社会とレベルで考える	…24
○×クイズ (小・中人数)		ゲームを通じて正しい性の知識を修得	…25
どうして話せないのだろう		どうして多くの人が性的なことをご口にしようと思えないのかを分析する	…26
ストレスと「性の健康」		ストレスがあるときの性の行動や性の健康のリスクを考える	…27
○さんがコンドームを 買えない理由		行動を起こすにはどこをどう変えていけばよいか考える準備を行う	…28
こんなときどうしよう		性の健康を損ないやすい状況を変えるための解決策を見出す	…30
大切に対実行する自信		さまざまな行動に優先順位をつけて、しぶんじんにたかできそうか考える	…32
男女スイッチ！		性役割にどれだけ影響されているか気づくこと	…34
シナリオを朗読する		コミュニケーションの方法について考え、リハサルする	…35
シナリオを書いてみる		コミュニケーションの方法について考え、リハサルする	…37
シナリオを演じてみる		コミュニケーションの方法について考え、リハサルする	…39

索引B ● グループ分け

ワークのなまえ	ワークのジャンル	参加者全体	グループに分ける	参加者各人個別
動物自己紹介		●	●	
からだほぐし		●	●	
代返ゲーム		●	●	
つみき自己紹介		●	●	
名刺交換		●	●	
仮想商店街		●	●	
健康しりとり		●	●	
今の気分は何色?		●	●	
プレゼントのお礼		●	●	
じゃんけんバンク		●	●	
コンドームバレーボール		●	●	
なんちゃって手話		●	●	
からだで字を書こう		●	●	
手をたたこう		●	●	
プラインドウォーク		●	●	
○×クイズ (大人数)		●	●	
デートではこれが一番大事!		●	●	
感染者の手記を読む		●	●	
「気持ちいい」いろいろ		●	●	
健康を守るために みなが行っていること		●	●	
どうしてコンドームが 使えないのだろう		●	●	
HIVについてわたしと 社会ができること		●	●	
○×クイズ (小・中人数)		●	●	
どうして話せないのだろう		●	●	
ストレスと「性の健康」		●	●	
○さんがコンドームを 買えない理由		●	●	
こんなときどうしよう		●	●	
大切に実践する自信		●	●	
男女スイッチ!		●	●	
シナリオを朗読する		●	●	
シナリオを書いてみる		●	●	
シナリオを演じてみる		●	●	

ホディ・ワーク

行動を起こす準備のためのワーク

索引C ● 参加者の主な活動

ワークのなまえ	ワークのジャンル	話す	書く	動く
動物自己紹介		●		
からだほぐし		●		●
代返ゲーム		●		
つみき自己紹介		●		
名刺交換		●		●
仮想商店街		●		●
健康しりとり		●		
今の気分は何色?		●		
プレゼントのお礼		●		
じゃんけんバンク		●		●
コンドームバレーボール		●		●
なんちゃって手話				●
からだで字を書こう				●
手をたたこう				●
プラインドウォーク				●
○×クイズ (大人数)				●
デートではこれが一番大事!		●		●
感染者の手記を読む		●		●
「気持ちいい」いろいろ		●		●
健康を守るために みなが行っていること		●		●
どうしてコンドームが 使えないのだろう		●		●
HIVについてわたしと 社会ができること		●		●
○×クイズ (小・中人数)		●		●
どうして話せないのだろう		●		●
ストレスと「性の健康」		●		●
○さんがコンドームを 買えない理由		●		●
こんなときどうしよう		●		●
大切に実践する自信		●		●
男女スイッチ!		●		●
シナリオを朗読する		●		●
シナリオを書いてみる		●		●
シナリオを演じてみる		●		●

ホディ・ワーク

行動を起こす準備のためのワーク

考えを整理するためのワーク

ロールプレイと練習

ワークブック

索引D ◎ 性の取り扱い

ワークのなまえ	ワークのジャンル	取り扱わない	取り扱う	テーマによって
動物自己紹介		●		
からだほぐし		●		
代返ゲーム		●		
つみき自己紹介		●		
名刺交換	アイスブレイク ウォームアップ	●		●
仮想商店街		●		
健康しりとり		●		
今の気分は何色？		●		
プレゼントのお礼		●		
じゃんけんバンク		●		
コンドームバレーボール		●	●	●
なんちゃって手話		●		●
からだで字を書こう		●		
手をたたこう		●		
フラインドウォーク		●		
○×クイズ (大人数)		●		●
デートではこれが一番大事！		●	●	●
感染者の手記を読む		●	●	●
「気持ちいい」いろいろ		●	●	●
健康を守るために みなが行っていること		●	●	●
どうしてコンドームが 使えないのだろう		●	●	●
HIVについてわたしと 社会ができること		●	●	●
○×クイズ (小・中人数)		●	●	●
どうして話せないのだろう		●	●	●
ストレスと「性の健康」		●	●	●
○◎さんがコンドームを 買えない理由		●	●	●
こんなときどうしよう		●	●	●
大切な対実行する自信		●	●	●
男女スイッチ！		●	●	●
シナリオを朗読する		●	●	●
シナリオを書いてみる		●	●	●
シナリオを演じてみる		●	●	●

索引E ◎ おおよその所要時間

ワークのなまえ	ワークのジャンル	15分以内	30分以内	45分以内	60分以内
動物自己紹介		●			
からだほぐし		●			
代返ゲーム		●			
つみき自己紹介		●			
名刺交換	アイスブレイク ウォームアップ	●	●		
仮想商店街		●			
健康しりとり		●			
今の気分は何色？		●			
プレゼントのお礼		●			
じゃんけんバンク		●			
コンドームバレーボール		●	●		
なんちゃって手話		●			
からだで字を書こう		●			
手をたたこう		●			
フラインドウォーク		●		●	
○×クイズ (大人数)		●			
デートではこれが一番大事！		●	●		
感染者の手記を読む				●	●
「気持ちいい」いろいろ				●	●
健康を守るために みなが行っていること				●	●
どうしてコンドームが 使えないのだろう				●	●
HIVについてわたしと 社会ができること			●		
○×クイズ (小・中人数)		●			
どうして話せないのだろう				●	●
ストレスと「性の健康」				●	●
○◎さんがコンドームを 買えない理由				●	●
こんなときどうしよう				●	●
大切な対実行する自信			●		
男女スイッチ！					●
シナリオを朗読する	ロールプレイと 練習				●
シナリオを書いてみる					●
シナリオを演じてみる					●

# 行政と NGO の連携を促進するための検討報告書

主任研究者 池上千寿子

はじめに

本報告書は、後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針見直し検討会による報告書（2005）のうち以下、Ⅲ－（2）をうけて設置された検討会による6回の討議をまとめたものである。

## Ⅲ 施策の評価等

### （2）NPO、NGO等との連携及び財団法人エイズ予防財団の機能の見直し

個別施策層を対象とする施策を実施する際には、感染者・患者団体を含むNPO、NGO等の民間団体と連携することが有効である。エイズ対策を今後も長期にわたって展開していく必要性にかんがみれば、こうした団体等における人材確保が重要であり、財団法人エイズ予防財団は、人材育成、活動支援等において、こうした団体等を支援する核となって機能すべきである。また、どの都道府県地域で、どのような団体等がどのような活動を行っているのかという情報を、地方公共団体に提供できる体制を確保することが望まれるとともに、支援するに相応しい団体等を評価するための手法の確立が必要である（後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針見直し検討会による報告書、2005年）

本検討会は、以下を主な目的とした。

「エイズ予防財団がNGOの活動を支援し、行政との連携を促進するためにNGOのプログラム評価をするための手法及び指標を検討し、その考え方を整理すること」

検討会の構成委員

エイズ予防財団事務局長、専務理事 他担当者

厚生労働省健康局疾病対策課担当者

市川誠一（名古屋市立大学）

長谷川博史（JaNP+）

生島嗣、池上千寿子（特定非営利活動法人ぶれいす東京）

講師として山岡義典氏（日本NPOセンター副代表理事）を招聘した。

検討会は2005年7月から12月まで以下の日程で毎月1回開催した。

2005年7月13日、8月12日、9月30日、10月21日、11月14日、12月19日

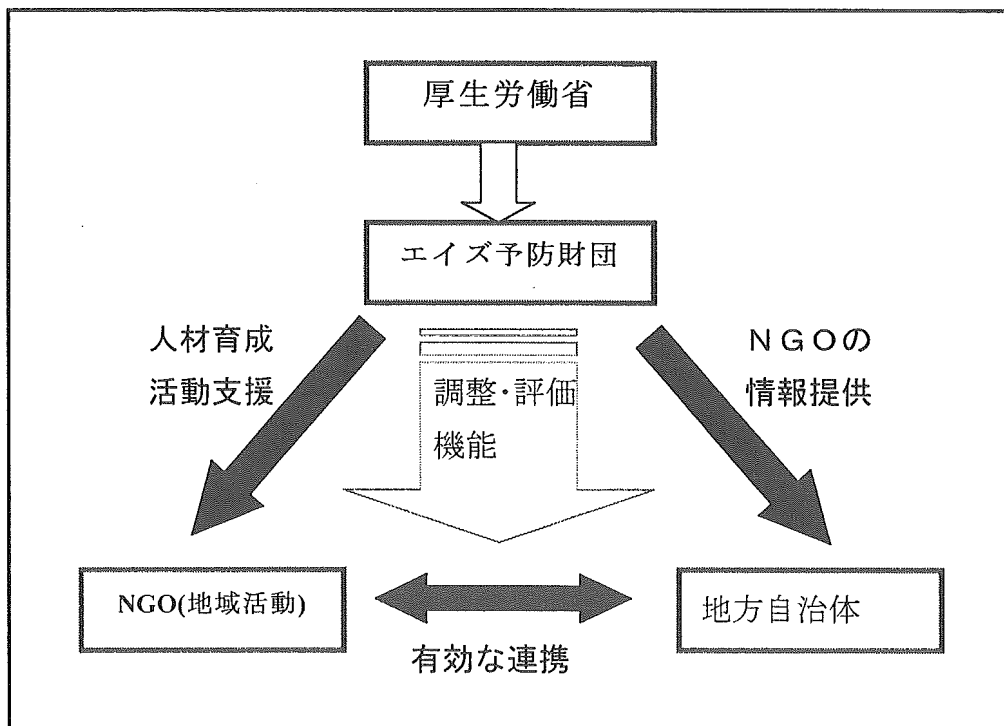
## 総論

### 1 予防指針見直しによる今後5年間の課題

エイズ予防指針見直し検討会は、施行以来5年を経過したエイズ予防指針をうけて5年間の施策を見直し、問題点や課題を整理し、今後5年間の指針を構築することを目的として開催された。その報告書(2005)「Ⅲ-(2) NPO, NGO等との連携及び財団法人エイズ予防財団の機能の見直し」が今回の検討会の課題となるテーマである。

この課題で示された理念のイメージを構造的に図示すると以下のように示される。いいかえると、以下のような連携や機能が具体的かつ有効に果たされることが今後5年間の目標であるといえる。

図1 エイズ予防財団の機能に関するイメージ



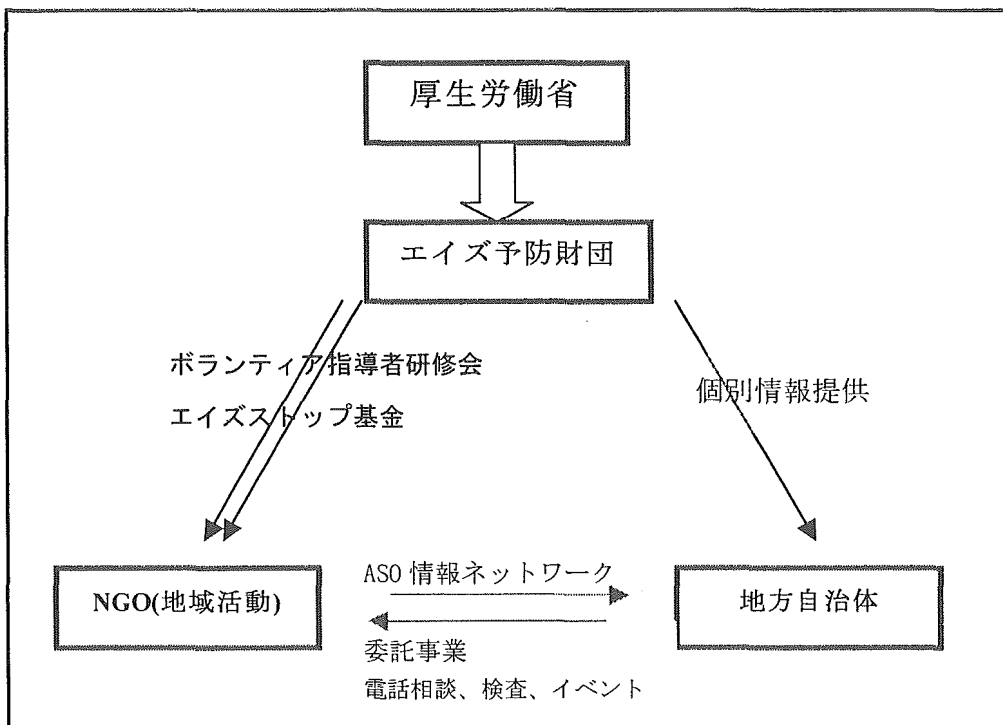
まず、図1で示すNGOとはなにか整理しておきたい。直訳すれば「非政府組織」であり、特定非営利活動法人という法人格を有する組織と任意の団体として法人格を有しない組織とが含まれる。広義には財団法人エイズ予防財団もNGOであるが、ここではエイズに関する予防やケア等の具体的な活動を地域に密着して継続的に運営している組織に限定する。

ただし地域密着といっても市町村等に限定されている場合もあれば、対象者のニーズにあわせて行政の管轄枠を超えてより広域にサービスを提供している場合も含まれる。具体的活動といっても週に1回ボランティアで電話相談を実施しているだけという活動もあれば、専従職員がいて予防とケアに関する複数のプログラムをフルタイムで運営している組織もある。サービス対象者をゲイ、外国人等特定の集団に限る組織もあれば対象者の属性を問わない組織もある。一口にNGOといっても実際にはじつに多様である。

## 2 5年間の課題に対する現状

では、上記課題に対して現状はどのようになっているのだろうか。現状をわかりやすく認識するために以下に図示してみる。

図2 NGO支援と連携の現状



エイズ予防財団によるNGOの人材育成プログラムとして「ボランティア指導者研修会」が毎年実施されている。NGO活動支援としては「ストップエイズ基金」がある。

NGOに関する情報提供としては、エイズNGOの傘組織といえるエイズ&ソサエティ一研究会議（NGO）が発行した「ASO情報ネットワーク」等がある。

また、NGOは地方自治体の委託事業として電話相談事業や検査事業を実施したりしている。これらは継続的な委託事業であるが、単発的な事業としてはエイズデー関連で自治

体が企画したイベントにNGOが参加したり、保健所による啓発事業でNGOスタッフが地域の学校や研修会等に派遣されることもあり、参加の仕方は多様である。

### 3 現状の分析と改善点及び課題の整理

さて、上記のような現状からいかにして目標を達成したらよいのだろうか。まずはエイズ予防財団による既存のプログラムが実際どのような役割を果たし効果をあげているのかを分析する（プログラム評価）必要がある。つぎに、プログラム評価を中心にNGO活動の評価とはいかなることかについて整理し、さらにNGOと自治体とが有効に連携することとはどういうことなのかを検討し、そのために財団が果たすべき調整及び評価機能について具体的に考察する必要がある。これらの項については各論でくわしくふれる。

### 4 目標を達成するために NGO連携委員会の設置

現状を把握し課題を整理したうえで、予防指針の見直しで指摘された目標を達成するための具体的な方策を提言する。結論からいえば、NGO連携委員会をエイズ予防財団に設置することを提言する。この委員会は目標を達成するための活動母体である。

6回の検討会で議論されたことから言えるのは、改善のための実行母体がなければ指針の見直しによる課題の達成は有名無実に終わりがねない、ということである。予防指針の見直し検討会でも、「指針自体はよくできているが実行されていない、指針にもられた施策のモニタリングがされていない」と多くの委員から何度も指摘された。今後はこのような指摘をうけないようにすることこそ、今次見直しによる成果をあげることに他ならない。

## 各論

### 1 NGOの役割とNGO活動支援の必要性と重要性について

エイズ予防財団によるNGO活動支援、人材育成の現状分析をする前に、エイズ対策におけるNGOの役割及びNGOの活動支援がなぜ必要で重要なのかを整理しておきたい。

#### 1) エイズ対策におけるNGOの役割について

1988年、WHOはエイズNGOの国際的ネットワークICASO (International Council of AIDS Service Organizations)及び感染者の国際的ネットワークGNP+ (Global Network for People Living with HIV/AIDS) の設立を経済的に支援した。ICASO及びGNP+は各地域(アジア太平洋、アフリカ、ラテンアメリカ、北アメリカ、ヨーロッパ、カリブ地域)に支部ネットワークを持ち、それぞれの地域ネットワークは各国のNGO、感染者団体の傘組織として機能するだけでなく国際エイズ会議、地域エイズ会議の共催団体としてエイズ対策の最前線で活動している。このことはNGO、感染者活動がエイズ対策において必要かつ重要なパートナーであるという国際的認識を示す。エイズは、単なる一疾患として医学的に対応するだけでは解決できない社会的、経済的、倫理的、文化的課題を提起するものであり、社会をうつす鏡であるともいえる。

社会を活性化し、市民にとってよりよい社会を形成していくためには、行政による公助、地域市民による互助、個人の自助のいわゆる三助がそれぞれに有機的に機能し合うことが不可欠であるが、エイズにあてはめれば、公助とは国家的政策の構築、医療、福祉などの整備であり、互助とはNGO活動、自助とは感染者・患者活動であるといえよう。

予防においては、個別施策層それぞれの真のニーズを把握するためには当事者コミュニティと研究者や行政の協働が不可欠であり、ケアにおいてもサービスの消費者たる感染者・患者を無視しては有効な対策を講じることは困難であろう。

#### 2) NGO活動支援の必要性と重要性について

日本ではNGOすなわちボランティアという固定観念が強いために、NGOが安定した経済基盤を確保することはきわめて困難である。しかし安定した経済基盤なくしては事務所の確保も専従スタッフの維持も難しい。そこで、NGOは事業助成や寄付を可能な団体や個人に申請するが、事業助成はプログラム事業に係る経費は認めてもNGO運営に係る経費は認めない。したがって、NGO活動は狭い事務所に無償労働がつきものになってしまっている。NGOの脆弱な経済基盤という問題については厚生労働科研による調査によってもすでに指摘されている(我妻2002)

とりわけエイズNGOについては社会的偏見が経済的困難さを強化してしまう。企業に



よる助成金提供プログラムを含む社会貢献活動においては、「環境」「人権」「女性」「子ども」などのテーマは歓迎されるが、「エイズ」は「企業イメージが悪くなる」と敬遠されてしまう。寄付においても同様である。日本社会は残念ながら、エイズを「だれにでも関係する基本的かつ社会的な課題」として捉えていないのが現状である。

このような社会的意識の喚起は国家的対策としてきわめて重要であるが、コミュニティや地域での意識喚起はNGOの重要な活動のひとつであり、このことから行政によるNGO活動支援は必要かつ重要である。

## 各論

### 2. エイズ予防財団によるNGO支援について一現状と課題

エイズ予防財団がNGO支援を目的として継続して実施してきた事業(プログラム)には、「日本エイズストップ基金」及び「ボランティア指導者研修会」がある。各論1で述べた視点から現状のプログラムが十分に成果を挙げているのか否かを検討する。

#### 1) 日本エイズストップ基金について

これは民間から集められた寄付金を直接NGOに配分するものであり、直接的な経済的支援であるといえる。しかし、検討会では、以下のような問題点が指摘された。

- ① 寄付収入が減少傾向を示し続けている。
- ② 寄付収入の減少にも関わらず配分対象のNGOが多いために個別の配分金額が減少している。
- ③ 基金配分の基準や配分をうけるNGOの選定基準が不明瞭である。
- ④ 配分された助成金がどのように活用されたかに関するモニタリングや評価がない。

寄付収入の減少は社会的意識の希薄さもさることながら、寄付者に対して配分先のNGOの名称しか広報されないために寄付の成果がわかりづらい。NGOにとっては申請書を提出しても選定・配分基準が不明瞭で小額づつばら蒔かれる、という印象をぬぐえない。したがって、寄付者(支援者)にとっても成果(コストパフォーマンス)がわかりにくく、受益者であるはずのNGOにとってもメリット感が希薄であるというのが実情である。このままでは寄付金はさらに減少し、助成はさらに小額になりかねない。

ここで必要なのは、日本エイズストップ基金プログラムについてのプログラム評価である(評価については11頁を参照)。

日本エイズストップ基金は、そもそもNGO活動へのファンドレイジングという役割をもつが、さらには社会的意識を喚起するという波及効果も期待されており、受益者(NGO)、支援者(寄付者)、市民という3つの立場の評価が必要であろう。評価の目的は、基金の委員会の構成もふくめたプログラム全体に関する改善点の提示である。

#### 2) ボランティア指導者研修会

これはNGOの人材育成を目的とした支援事業であるが、研修会の企画・運営をNGOに委託することにより、受託したNGOにとっては事業運営のスキルビルディングにもなると考えられる。

この委託方式はNGOとの連携事業のモデルのひとつになりうる。なぜならば、この方

式は事業の立案及び実施において当事者参加レベルがきわめて高いことを示している（事業の連携レベルについては後にふれる）からである。具体的には以下の3点にまとめられる。

- ① NGOで活動するためにどのような人材が求められ、そのためにはどのような研修が必要であるかは受益者たるNGO自身がより正確に把握していると考えられる。
- ② 当事者であるNGOが人材育成の立案から参加し運営、評価まで実施し、財団は育成の場と資金を提供している。
- ③ プログラム及び参加者による評価結果も情報として開示されており、次にこのプログラムを受託するNGOは過去のプログラム情報を次なる研修企画への貴重な資料として活用することができる。

このような方式で継続されている委託事業を指導者養成研修だけでなく新人研修等にも発展させることが求められる。

### 3) エイズ対策研究事業に関連した支援：リサーチレジデントについて

#### 個別施策層への啓発におけるNGO、コミュニティ支援

厚生労働省によるエイズ対策研究事業では法人格を有するNPOが主任あるいは分担研究者として採用されてきた。この結果、主任あるいは分担研究者であるNGOが、研究事業の一環としてエイズ予防財団によるリサーチレジデント制度を利用して人材(若手研究者)を確保したり、研究成果物を広く市民やコミュニティに配布するための経費等の支援をうけることができた。

しかしながら、これらの支援はあくまでも研究の一環として実施されるもので研究期間が終了すれば継続不可能になる。また、あくまでも研究という枠組みにしばられるという制約がある。このためNGOやコミュニティのニーズにあわせて継続する支援にはなりにくい。

とはいえ、ブロック拠点病院には、エイズ予防財団のリサーチレジデントとして「情報官」を継続的に配置しているという実績がすでにある。そのような人材をコミュニティあるいはNGOにおいても確保しネットワークを作ることは、コミュニティの自助能力を高め、NGOの人材を育成するという点で有効であろう。

個別施策層への対策について、たとえば「対象となるMSMが地域にいかにか存在するのかわからない」、「対象へのアクセスが困難で、アクセスできたとしてもアプローチの手法がわからない」、「したがって対策を講じられない」と説明する自治体が少なくない。しかしMSMは日本のほとんどの地域にいるし、コミュニティとはいわないまでも、情報伝

達窓口になりうるキーパーソンは存在するのである。広域のMSMコミュニティーあるいはNGOとつながることによってキーパーソンとつながることができる。その意味からもNGOやコミュニティーでの「情報官」的な人材ネットワークをエイズ予防財団が育成し支援することは、地域行政とコミュニティーとの重要な調整機能をはたすことにつながるだろう。